令和元年度　北海道教育大学附属函館小学校　**総合的な学習の時間（桐の子タイム）全体計画**

＜児童の実態＞

・一人一人の学習意欲や思考力，判断力，表現力などが高い。
・明確なゴールイメージがもてると，主体的に学習を進めることができる。

＜保護者の願い＞

・函館市，北斗市，七飯町など通学地域が広範囲に渡るため，学校生活の中で子供同士の結び付きを強めたり，多様な体験をしたりしてほしい。
・自ら考え，解決する力を育んでほしい。

学校教育目標　≪校訓≫

人間尊重の精神を養い，情操豊かで実践力のある児童の育成

○ 強い意志と健康なからだで，活動する子　≪強く≫
○ 明るい心とやさしい気持ちで，協力する子 ≪明るく≫
○ よい考えと正しい判断で，努力する子　≪正しく≫

重点教育目標

附属函館小学校児童としての誇りをもって学ぶ子の育成

◇「学ぶ楽しさ」や「やり遂げた喜び」を実感する子供の育成
◇「授業の工夫・指導の改善の楽しさ」や「成長・成果に喜び」を実感する教育実践

＜学校の実態＞

・「子供一人一人が期待に胸をふくらませて登校し,やり遂げた喜びに心をおどらせて下校する附属小学校」を目指し,「Creating My Future ～一歩進んだ 次の自分へ～」,「一人一人の子供に応じた学びの創造」を掲げている。
・附属中学校，附属特別支援学校，附属幼稚園が同敷地内に隣接されているため，交流が行いやすい環境にある。
・ICT 環境が整っており iPad50 台が整備されている。
・学年や２学年のまとまり(ブロック)，全校で活動することが多く，教職員間の連絡，調整，情報交換をきめ細かく行っている。

本校の総合的な学習の時間（桐の子タイム）の目標

探究的な見方や考え方を働かせ,実社会・実生活の中にある人,もの,ことに進んで関わる活動を通して，新たな概念や技能を身に付け，主体的・協働的に課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

＜探究的な見方・考え方＞　各教科等における見方・考え方を総合的に活用し,広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え,実社会・実生活の課題を探究し,自己の生き方を問い続けること。

知識・技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
実社会・実生活の中にある人,もの,ことに関わる探究的な学習の過程において,対象のもつ意味やよさ,それらを支える人々の努力や工夫に気付き,課題にかかわる概念を形成する。体験したり他者と関わったり,情報を収集したり学習を振り返ったり,気付いたことや考えたことを表現したりする技能を身に付ける。	実社会・実生活の中にある人，もの，ことと自分自身との関わりから思いや願い，問いをもち，その実現や解決に向けて他教科で身に付けた資質・能力も活用し，自ら課題を立て，情報を集め，整理・分析し，根拠を明らかにしてまとめ・表現することができる。	探究的な学習の過程において，自分自身の学習活動の意味や価値を見いだし，自覚しながら追究し続けていく中で，互いに認め合い，よさを生かし，高めあいながら自分自身の成長やよさに気付き，持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え，自ら社会に参画しようとする態度を養う。

年	目標を実現するにふさわしい探究課題		探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
			知識・技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
3年	情報	・適切な情報機器の操作と使い分け（例「教えて！iPad 先生」）	iPad やＰＣなどの基本的な操作を理解し,目的に合わせて適切に使うことができる。	身近な人から聞いた情報をもとに,それぞれの目的に合った使い方について考えることができる。	これからの学びや生活の中でどのように使っていくとよいか考え,目的に合わせて進んで生かそうする。
	食	・学校給食に関わる人々（例「FUZOKU☆給食隊！」）	給食を作っている人たちは，自分たちの健康を思い,工夫や努力していることや食のバランスの大切さを理解し,マナーを身に付ける。	給食作りの過程や作っている人たちの工夫や努力を知るための活動を考え，集めた情報を比較したり分類したりする。	食の大切さを実感し自らの健康を考え,支えてくれている人への感謝の気持ちをもち,日常の食生活の在り方に生かそうする。
	健康・スポーツ	・健康と運動，スポーツ（例「フゾリンピック☆スポーツ健康隊」）	健康な体づくりのためには，効果的な運動が必要であることを理解する。	健康と運動との関係や，様々なスポーツのよさについて調べ，根拠を明らかにしてまとめることができる。	運動やスポーツのよさを理解し，身近な人に伝えたり，日常の生活に生かそうとする。
4年	キャリア	・今までに支えてくれた人々と自己の成長，将来（例：「未来へのステップ～1/2 成人式～」）	今までに多くの人の支えがあり，今の自分があることや成長していることを理解する。	身近な人から聞いた情報をもとに，自分の成長を感じたり 1/2 成人式に向けて必要なことを考えたりすることができる。	自らの成長を実感し,自らの成長を支えてくれる人への感謝の気持ちをもち,これからの自分の生活について考える。
	国際理解	・地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている価値観（例「外国人をもっと知ろう！」）	衣食住や日常生活において，日本との文化の違いや背景を理解する。	日本との文化の違いやその背景について調査し，比較してまとめることができる。	調査活動や交流活動に意欲的に取り組み，今後の生活の中で，それぞれの価値観や文化を大切にしようとする。
	地域・福祉・情報	・プログラミングと社会や生活の変化（例「便利☆発見隊！」）	身近な生活でコンピュータやプログラミングが活用され，自分たちの生活が便利になっていることを理解する。	課題を見いだして調べたり，関わる人から聞いたりしながら,自分と友達の情報や考えを比較し関連付け，根拠を明らかにしてまとめることができる。	調査活動や交流活動に意欲的に取り組み，関わる人の話や友達の考えを生かしながら，プログラミングの働きをよりよい生活や社会に生かそうとする。
5年	地域	・地域の観光とＰＲ（例：函館 PR 隊）	函館には観光客が訪れる魅力がたくさんあること，PR の重要性を理解し，PR 方法を身に付ける。	資料や体験等を通して，函館に観光客が多数訪れる理由や効果的な PR 方法について考え，表現することができる。	主体的・協働的に函館の魅力を追究したり，PR したりしていくことを通して函館への愛着をもつ。
	食・産業	・東北の魅力と自分のまちとの違い（例:レッツ・TOUHOKU リサーチング）	東北には観光客が訪れる魅力がたくさんあることを理解し，自分のまちとの違いを見いだす。	資料や体験等を通して，東北に観光客が多数訪れる理由を調査したり，視点を明確にして自分のまちと比較したりする。	調査活動や交流活動に意欲的に取り組み，まとめたり，比較したりすることを他の学習でも生かそうとする。
	福祉	・障がいをもっている人々と関わり方（例「ともに生きる①」）	様々な障がいがあり，一人一人の状況に合わせる必要性を理解し，配慮をすることができる。	交流体験に向けて活動を考えたり，振り返ったりすることを通して，障がいをもつ人との関わりについて考える。	障がいをもつ人との関わりについて考えたことを，別の場面や日常生活における他者との関わりで生かそうとする。
6年	地域・情報 食・産業	・地域や学校の魅力（コンピュータ活用）（例「地域や学校をもっと紹介しよう！」）	地域や学校のよさを捉え，紹介・案内する内容を考え，活動に取り組むことができる。	相手や目的に合わせて，紹介・案内の試行や修正を繰り返しながら,よりよい内容・方法を考えることができる。	交流や活動の内省をしながら，よりよい内容・方法に修正することを，他の学習や日常生活に生かそうとする。
	福祉	・障がいをもっている人々と関わり方（例「ともに生きる②」）	様々な障がいがあり，一人一人の状況に合わせる必要性を理解し，配慮をすることができる。	交流体験に向けて活動を考えたり，振り返ったりすることを通して，障がいをもつ人との関わりについて考える。	障がいをもつ人との関わりについて考えたことを，別の場面や日常生活における他者との関わりで生かそうとする。
	キャリア	・実社会・実生活で働く人々と自己の将来（例「レッツ・ライフプランニング」）	いろいろな職業の人達が自分たちの生活を支えていることやこれからの自分に必要なことを理解する。	資料や体験を通して，働く人達の工夫，努力，協力と国民生活との関連を考えることができる。	様々な職業の人達とかかわったり，今までの生活を振り返ったりして考えたことを基に，これからの自分について考える。

研究の重点【メタ認知】

他の教科等で育成する資質・能力

教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力

＜情報活用能力＞コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり，情報を整理・比較したり，得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり，必要に応じて保存・共有したりする力（情報手段の基本的な操作の習得，**プログラミング的思考**，情報モラル，情報セキュリティ，統計等含む）

＜言語能力＞言葉によって，新たな知識を得たり，必要な情報を取り出したり，自分の考えをまとめたり，他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり，目的を共有して協働したりする。（感性・情緒，他者とのコミュニケーションの側面，**創造的・論理的思考**,）

コンピュータやプログラミングソフトの活用（順序・反復・条件分岐など），考えるための技法（比較・分類・関連付けなど）

指導方法

・児童の課題意識を連続発展させる支援
・個に応じた指導の工夫
・諸感覚を駆使する体験活動の重視
・協働的な学習活動の充実
・教科との関連的な指導の重視
・対話を中心とした個別支援の徹底
・言語活動による体験の意味の自覚化
・考えるための技法を活用した学習活動

指導体制

・校内の連絡調整と支援体制の確立
・情報の集積と活用
・地域教育力の効果的運用
・ティーム・ティーチングの日常化
・ワークショップ研修の重視
・学校施設や設備の整備・充実

学習の評価

・学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオの活用
・発表や話し合いの様子，学習や活動の状況の観察
・レポート，ワークシート，ノート，作文，絵などの製作物
・一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動するパフォーマンス評価
・評価カードや学習記録などによる児童の自己評価や相互評価
・教師や地域の人々等による他者評価
・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定
・個人内評価の重視，指導と評価の一体化の充実
・学期末，学年末における指導計画の評価の実施
・授業分析による学習指導の評価の重視
・教育課程に対する評価の実施

学習活動

・単元は学年で開発し，各学年で年間２～３単元程度とする。
・探究的な活動となるような基本の学習過程を設定する。
・各教科等と内容的な関連を図る。
・児童の興味・関心や地域の実態に応じた学習を展開する。
・地域との連携，外部の人材活用を積極的に行う。